

文字が判読できる。七文字目は経文から、「菩」と推測できる。

(2)(3)は『無量寿経』の一節である。(2)は上下端を折損し、左右両側面は下部近くの四二mm分が遺存しているが、側面に特に加工はみられない。墨痕は比較的明瞭で、文字は片面のみ一六文字が観察できる。(3)は上下端を折損しているが、短冊状の形態をよく留めており、今回出土した柿経の中では最も遺存状態が良い。これにも側面の加工はみられない。墨痕もよく観察でき、文字は片面のみ一五文字が観察できる。文字数を揃えてあった可能性を考えると、少なくとももう一文字は記されていたと思われる。

(1) (3)の他に墨書のある小片が一〇点あり、いずれもその形状や文字の記されている位置などから、(1) (3)と一連の柿経の断片であると考えられる。そのうち文字の判読できるのは、(4)(5)の二点のみである。(4)は上下端と右側面を折損している。墨痕は比較的明瞭に残っていて三文字観察できるが、中央の一文字のみ判読できた。(5)は上下左右とも折損している。墨痕は比較的明瞭で、二文字が観察できる。

なお、経文の出典及びその内容については、平等院の神居文彰住職・西村恵祥氏のご教示をいただいた。

(吹田直子)

木簡研究 第一九号

巻頭言

一九九六年出土の木簡

町田 章

概要 平城宮跡 平城京跡 藤原宮跡 恭仁宮跡 長岡京跡 平安京跡
左京八条三坊十四町(八条院町) 末寮跡群 大坂城跡 広島藩大坂蔵屋敷跡 樟葉野田西遺跡 三条九ノ坪遺跡 大物遺跡 深田遺跡 安倉南遺跡 明石城跡坤櫓 明石城武家屋敷跡 袴狭遺跡 印場城跡 角江遺跡 御殿・二之宮遺跡 川合遺跡志保田地区 北条小町邸跡 伊興遺跡 丸の内三丁目遺跡 汐留遺跡 江戸城外堀跡 牛込御門外橋詰 尾張藩上屋敷跡遺跡 青山学院構内遺跡 岡部条里遺跡 上山神社遺跡 湯ノ部遺跡 観音寺城下町遺跡 小谷城跡 高山城三之丸堀跡 松本城三の丸跡土居尻 松本城下町跡伊勢町 前橋城遺跡 大猿田遺跡 根岸遺跡 泉平館跡 山王遺跡 舟場遺跡 無量光院跡 志羅山遺跡 後田遺跡 亀ヶ崎城跡 宮ノ下遺跡 上高田遺跡 大桶遺跡 杉田柵跡 長田南遺跡 金石本町遺跡 田尻遺跡 大坪遺跡 舞臺遺跡 馬寄遺跡 下町・坊城遺跡 新発田城跡 目久美遺跡 天神遺跡 三田谷I遺跡 鴻の巣東遺跡 吉川元春館跡 長登銅山跡 飛田坂本遺跡 博多遺跡群 香椎B遺跡 鞠智城跡 前田遺跡 那覇港周辺遺跡群旧東村地区
一九七七年以前出土の木簡(一九)

岡山・美作国府跡

韓国出土の木簡について

史料紹介 琉球の木簡二題

書評 山里純一著『沖繩の魔除けとまじない―フーフダ(符札)の研究―』

書評 東野治之著『長屋王家木簡の研究』

彙報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円

李 成市
山里 純一
高島 英之
鶴見 泰寿